

2024年
10月1日
第2号

ひょうご NIE 通信

—2025 神戸大会へ—

発行 神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



「ヒロシマ」題材に実践発表

戦後 80 年 来年の神戸大会で

来年7月31日、8月1日の「第30回 NIE 全国大会神戸大会」は、大会のスローガンを「時代を読み解き、いのちを守る NIE」とした。

今、ウクライナやパレスチナ自治区ガザの人々は、明日のいのちさえ分からない、戦火の下で生きる。現在、日本に避難しているウクライナ人は2680人。児童生徒には8200も先の遠い国の戦争ではなく、自分ごととして考えてほしい。来年は戦後80年の節目。平和の尊さを伝えるため新聞にできることは何かを考える。

神戸大会2日目は、兵庫で NIE 活動に取り組む学校が公開授業や実践発表を行う。

その一つ、愛徳学園小・中・高校(神戸市垂水区)は「ヒロシマ」をテーマにした小中連携授業を実践発表する予定だ。

授業は秋、広島に修学旅行に行く中学3年生が現地での学習の成果を新

聞にまとめ、小学6年生に平和の大切さを伝えるもので、同校の教諭でつくる「NIE 研究会」が数年前から続けている。

今年も、児童や生徒は事前学習として、中国新聞社(本社・広島市)が原爆忌を報じた紙面を読んだり、著名な被爆者の一人、近藤紘子(こうこ)さん(79)＝三木市＝の話の聴いたりした。

近藤さんは10歳の時、米国で、広島に原爆を投下したエノラ・ゲイの副操縦士と出会ったことに触れ、「憎むべきは人ではなく戦争」と語った。その力強い言葉に、生徒たちは表情を引き締めた。

神戸大会の実践発表では、広島県 NIE 推進協議会の主要メンバーで、「平和」を題材に NIE 実践に取り組む呉市の小学校教諭に講評いただく予定だ。

兵庫県 NIE 推進協議会は、沖縄や広島に修学旅行などに行く中高生を対象に、沖縄戦や原爆をテーマにした出前授業を続けてきた。神戸市須磨区出身で、映画化もされた島田勲(あきら)沖縄県知事(当時)のこと、「原爆症研究の父」といわれる姫路市名誉市民の都築正男博士のこと、兵庫の戦争遺跡についても話してきた。

平和学習と NIE は親和性が高いと思う。各校の取り組みを支援したい。

(神戸新聞社 NIE・NIB 推進部シニアアドバイザー、兵庫県 NIE 推進協議会事務局長 三好正文)



平和への思いを語る近藤紘子さん＝9月25日、愛徳学園中学校

学校などで新聞を教材として活用する NIE の「実践指定校」。兵庫県内では2024年度、小中高校や特別支援学校など28校が、日本新聞協会や県 NIE 推進協議会から指定を受けた。来年夏の NIE 全国大会神戸大会では、主にこれらの学校が公開授業や実践発表を行う。新規12校のうち、2校に抱負を尋ねた。

実践指定校28校

人材育成に意気込みも

新規の内訳は小学校2校、中学校3校、高校7校、小中連携校1校、小中高連携校1校。

離島にある南あわじ市立沼島小・中学校は、全児童・生徒36人が、「国生み神話」など地元の文化や歴史、産業について調べたり取材したりし、新聞製作に挑戦する。中学校国語教諭の森彩夏さん(25)は「地域の良さを詰め込んだ新聞を作り、広く発信したい」と意気込む。

県立神戸甲北高校(神戸市北区)は、約600人の全校生徒が取り組む。授業での新聞活用のほか、毎週月曜朝の「週刊探 Cue!」の時間に、生徒が、新聞記事を題材にしたワークシートに向き合う。シートは、さまざまな教科の教諭が作成している。

実践代表者で国語科の久保淳平教諭(31)は「来年は阪神・淡路大震災から30年を迎える。NIE活動を通し、次の30年の神戸のまちをつくる人材を育てたい」と抱負を語る。

(神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 網 麻子)

なおみ先生の NIE 教室



小学生の宿題を高校生がサポートする教室を見に行った時、子どもに国語のアドバイスをしあげようと話しかけました。「本文にはなんて書いてあった?」「読んでないから知らない」「えっ?」

本文を読むと時間がかかるし面倒だから、設問に関係のある所だけ読んでいる—と言うのです。本文を読まずに国語の問題を解くなんてことある? そばにいた高校生が「私も読まない。傍線の引いてある付近だけを読むよ」。口あんぐり。国語の教師を長年やって

②

新聞音読の勧め

きて、本文を全部読まないで問題を解いている生徒がいるなど考えたこともなかった。

文章を読んでいるか、いないかは黙読では分からない。保護者の皆さま、お子さんが、おとなしく本を黙読しているからといって安心してはいけません。しっかりと文章を読む力を付けるには「音読」が一番です。新聞のコラムをお子さんに、声に出して読ませることをお勧めします。本紙朝刊1面のコラム「正平調」は510字程度、2分くらいで音読できます。小学校高学年にも読める内容で、時事にも強くなります。家事などしながら、お子さんの声に耳を傾けてください。家族の交流

も深まります。

学校でも授業の導入にいかがでしょう。黙読では読み飛ばしていた漢字や、難しい語句を読むことになるので語彙力が付きます。最近の入試は新聞音読を課す学校がありますから、試験や面接対策にもなります。音読最強!
(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

◇第4金曜に掲載します。

よしだ・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内の公立高校国語教諭、県教育委員会指導主事、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

語彙力鍛え時事にも強く

2024年9月27日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました